

アリス「うん、うん、もちろん！　イリスちゃんみたいな可愛い女の子から、お慕いしてる、なんて言われたら……っ、断りつこないよ！　むしろ土下座したいくらい！」

2 イリス「よかつた……。では、よろしくお願ひします……」

3 アリス「うわあ～！　イリスちゃんの身体、初めて見たけど……聖女様みたいだから華奢かつて思つてたら、すぐく女子らしくて、綺麗……！」

4 アリス「腰なんてキュッとくびれてるのに、おっぱいとかお尻とか、出るところはちゃんと出てて……とっても柔らかそうつ」

5 イリス 「あ、アリスさん……、言葉に出すの、やめてください……。さすがに恥ずかしいですから……」

6 アリス 「めんめん。アリスちゃんが魅力的だったから、つい
ね。じゃ、こっちきてくれる？ ベッドに腰掛けて……」

7 イリス 「あ、はい……。あの……そんなに経験がないので、優し
くお願ひします……」

8 アリス 「きやん！ そんなこと言われると、余計に苛めたくなつ
ちやう！」

9 イリス 「ええ！？ そんなあ……！」

10	アリス「えへへ、冗談よ。でも、ちょっと本気。アリスちゃんとエッチするの、私もかなり興奮してるからさあ！　ああ、もう！　後ろからぎゅうううしちやう！」
11	アリス「きやふん！？　はあ……つ、アリスさんの柔らかい身體と、体温……背中に感じます……」
12	アリス「ふふ。こうやつて、抱き締められて……誰かの熱を感じるのつて、気持ちいいよねえ。ね、アリスちゃん、キスしよ……」
13	アリス「……はい。ん……ちゅ。ふむ……ちゅ……つ。あふう……つ、唇と唇を合わせただけなのに……なんだか頭の芯まで、蕩けてしまいそうですね……」

アリス 「そんなに感じてくれるんだ……嬉しい！ もつとキス、
しよう……！ んちゅうつ、ちゅ……むちゅうつ。アリスち
やんの唇を、貪るつ。んちゅう、ちゅううツ」「

15 イリス 「んふウ！？ 今度はつ、激しい、れふ……！？ んふむ

つ、むんうつ、ちゅちゅう！？」

16 アリス 「舌も、絡め合う……つ。ちゅるんつ、じゅるウ！ レオ

レオレオつ」

17 イリス 「んはアツ！？ アリスさんの舌あつ、じゅりゅりゅうつ
……ぬるぬるつへ擦《こす》れへ……んんんつ、ちゅるつ、
頭がぼおつと、しへきひやいまふ……つ。じゅるン！」

21 イリス「んきゅううん！？ 乳首がつ、ジンジンしへ……んちゅ ちゅうつ、背中がジリジリつへ……！？ ジゅる、んんん！」	20 アリス「んふふつ。アリスちゃんの感じてる姿、可愛いよ……！ もつと感じさせたくなる！ んちゅうつ、キスしながら… …乳首を、指先で弾いへ！ コリツコリツ、コリツコリツへ ！」	19 イリス「くひゅッ！？ んひやあ！？ んちゅつ、ちゅる、おつ ぱい、もみもみされへ……つ、アソコの口まれ、スリスリさ れはら……！？ 何も考えられなくなつひやう！」	18 アリス「深いキス、しながら……つ、ジユルジユルつ、おつぱい と、下のお口も……！ んふうつ」
---	--	---	---

25 イリス「いひやあ！？ んつ、ちゅ、くちゅう！ 恥ずかしい、 れふ……！ んくうン！」	24 アリス「イリスちゃん、もうしつかり濡れへる……！ んちゅう つ、ジユル！ あふんつ、指がぬめつてしへえ……つ、ぬち ゅぬちゅ音、鳴つへるよつ」	23 イリス「はんんツ！？ きゅふウン！？ アソコの入り口つ、広 げられへ……！？ ちゅむう、ムリムリつへ中に、入つてく りゅ……！？」	22 アリス「はああっ！ イリスちゃん……ピクピク震えて、気持ち よさそう！ 股のお口も、気持ちよくしてあげる！ 指、入 れるね！ んつ、くんん！」
---	---	---	---

26 アリス「恥じらつへるイリスちゃんも、イイ……！ ジュルツ、 チュルチュル……！ 私、燃えちやうよ！」	27 アリス「いやらしい穴の中のつ、天井側にあるザラザラしたとこ ……んちゅつ、肉襞が密集しへるとこお……！ ここ、指先 れ……ズリツズリツ、ズリズリつへ！」	28 イリス「んんぐッ！？ ふああッ！ あつ、アリスさんつ、くあ あ！？ そこつ、ダメえ！ 身体がブルブルつて震えてつ、 止まらないですう！」	29 アリス「ああッ！ 聖女様みたいなイリスちゃんを乱れさせるの つて、ものすつごく背徳的で興奮する！ ハアッ、私もたま んない！ もうつ、アソコ同士……絡ませちゃおつ！」
---	--	--	---

イリス 「んっ、ああ！？ アリスさんのアソコもっ、濡れてる…
…！ 本当に私で、興奮してくれたんですね……！」

31

アリス 「もちろんだよっ。ほらっ、アリスちゃん……ぐしょ濡れ
になつてお互いの股を、寄せ合つて……！ くううん！」

32

イリス 「んひアツ！？ アソコ同士が、接触してえ……！？ ひ
やああン！ ぬちよつて、淫らな音があ……！？」

33

アリス 「あふっ、ハアハアツ、ほんと、いやらしい音、してるね
…！ それにつ、匂いもすごい！ アリスちゃんも私も、
卑猥なお口から甘酸っぱい匂い……してるよ！」

34 イリス 「匂いなんて……言わないでください！ ああンツ、恥ず
かしすぎます……！」

35 アリス 「その羞恥心が、高揚につながるんだよ……！ んつ、く
ああ！ 昂ぶりすぎてつ、ダメだ！ アソコ、おもつきり…
…すり合わせよ！ んつくウ！」

36 イリス 「きやはあアツ！？ 下のお口いつ、ニュルツニュルツて
滑つて……んひやああ！？ 擦れ合つてますウ……！」

37 アリス 「はくつ、ああ！ イリスちゃんのアソコ……つ、いやら
しくヒクヒクしてるので、わかるよ！ 私を求めて、くぱくぱ
してる！」

イリス「きやああンツ！？ ダメえ！ アリスさんのお股、スリスリされるのつ、気持ちいいんですウ！」

38
アリス「私も気持ちいい！ イリスちゃんの割れ目の肉とつ、ピ

ンピンに勃起してるクリがくりゅくりゅつて擦れて……んんん！ 私もダメになる……つ、うああン！」

39

イリス「んきゅつ、うああんツ！？ 頭の中、ビリビリ痺れて！？ ひあつ、気持ちよくなることしか考えられない！ ああアつ、身体も一痙攣『けいれん』してつ、だつ、ダメですウ！」

40

41
アリス「うん……うん！ イツていいよイリスちゃん！ 私ももうつ、イキそだから！ んくつ、くはつ、はああツ！？ イク……！ んんつ、イツちやう！」

45	44	43	42
<p>アリス「くっ、クリ同士がコリッて擦れてツ！？ 私もイク！？ んんんんんアあツ！！」</p>	<p>アリス「アリスっ……さん、アリスさん！ イキます……！ イク！ イクッ！ きやああああンッ！！」</p>	<p>アリス「恋人つなぎ……ねつ！ 指を絡ませて……んああ！ 股も、愛液もつ、絡ませ合つてえ！ んんんつ、一緒にイコ！ イリスちゃん！ ああっ、イリスちゃん！」</p>	<p>イリス「んひや！ ああ！ アリスさんつ、一緒に……一緒にイツてください！ 手を握つてえ！」</p>

46 イリス 「あうッ！？ あああ！ すごひつ、ですウ！ こんなに
つ、気持ちよくなつたの、初めて……！ まだイクううッ！」

47 アリス 「イツて、イツて！ 私も合わせてつ、イツてるからア！

くあああンッ！！」

48 イリス 「ひやああ！ 気持ちいいですう、アリスさんつ！ あつ、
ハツ……ハアツ、くはあ……！ あつ、うううう……つ。ハ
アハア、あうう……」

49

アリス 「はふつ、ハアハアハアツ！ ほんと……つ、くつ、ハア
！ 私もつ、イリスちゃんとのエツチ……気持ちよかつたあ
……！ う、はあく……」

53 イリス「ふふふ。アリスさん、目覚めてしまったのですね」	52 アリス「…………う…………？　ん…………？　なあに…………？　ん…………く…………？」 イリス、ちゃん…………？…………な、何してやるの！？」	51 イリス「ゾルアースに召喚されし人の子よ…………。汝、封印から解き放たれた魔神ウイズの魂をもつて、その肉体を捧げ——」	50 イリス「アリスさん、よく寝てます。よほど、私との性交に満足したのですね…………ふふふ。これからあなたの身体、いただきますからね…………。あ—————！」
---------------------------------------	--	--	--

58	57	56	55	54
アリス「それって、あの祠の……？ 部族が一丸となつて倒した つていう、おとぎ話？」	アリス「かつてソルアースに、災厄を撒き散らした魔神のお話し をご存じですか？」	アリス「私の身体を……？ いただくつて、どういうこと？」	イリス「ええ、魔法を発動していました。アリスさんの肉体をい ただこうかと思つて」	アリス「……アリスちゃん、今何かしようとしてなかつた？ 呪 文みたいなのが聞こえたけど」

62	61	60	59
<p>イリス「アリスさんと同じように、ウイズは戦いの中で、敵から様々な能力をコピーし、取り込んでいきました」</p>	<p>イリス「その通り。数年前、ハーレムクイーンになるべくヒト族の代表として地球より召喚された少女。彼女こそが、魔神ウイズなのです」</p>	<p>アリス「魔神の正体が……地球人！？」</p>	<p>イリス「ふふ。おとぎ話などではありませんよ。魔神の名は、ウイズ。アリスさん、あなたと同じく、勇者としてこの地に召喚された地球人なのです」</p>

63	イリス「多種多様の力を得てしまった彼女は、今度は己の力に取り込まれ……結果、暴走してしまった」
64	アリス「それが……魔神？」
65	イリス「はい。能力が、彼女の許容を超えてしまったんです。故に少女は自我をなくし、魔神と化しました」
66	アリス「……そんな数年前の話、だからどうだつていうの？」
67	イリス「賢いアリスさんなら、もう気付いているはずです。この間の嵐で、祠が壊れてしましましたね」

72 アリス「アリスちやん……それ本気で言つてるの？　冗談じやなく？　祝勝会の余興とか……」	71 アリス「魔神と同じ世界の住人であり、優れた身体能力を有するアリスさんの身体が、最も適しているんです。これは、とても名譽なことなのですよ」	70 アリス「……それで、私の肉体をいただこうって言つてたの？」	69 アリス「復活したのは魂のみ。完全な存在になるには、その器である肉体が必要なのです」	68 アリス「あれは……魔神ウイズを封印してた……！？　それが壊れたから、魔神が復活してるって言いたいの！？」
---	--	---	---	--

イリス「そう思いたいなら、アリスさんの好きにして構いませんよ」

アリス「う……ッ。魔神つて……この世界に厄災《やくさい》をもたらすんでしょう？ そんなのの復活に、私が協力すると思う？」

アリス「アリスさんの意思是関係ありません。これはもう、魔神

ウイズが決定している……神の意思、なのですから」

アリス「……わかったわ。じゃあ私は、ここを出て……うつく！」

？ な……何……！？ 身体がつ、動かない……！？

」

イリス「言つたでしよう。神の意思に、アリスさんは逆らうことはできないんです。術が発動するまで、私の話をのんびり聞いてくださいって、ありがとうございました」

77

76

75

74

73

82	81	80	79	78
アリス「く……！？ 素直に真相を話してたのは……時間稼ぎだ ったのね……」	イリス「はい。術が発動すれば、もはや抗うことできませんから。 さあ、あなたのその肉体を、魔神ウイズに捧げるのです」	アリス「うぐつ、くう……！？ どうしてよイリスちゃん！ な んであなたが、魔神を復活させようとするのつ！？」	イリス「ふふつ、しれたことです。魔神を従え、この世界の王に なるためですよ」	アリス「……王様？ そんなのになりたいがために……この世界 に悪さをするつていうの……！？」

イリス「悪さ、ではなく、力の証明です。王たる私の、圧倒的な力を愚民どもに刻みつけ、抵抗する意思さえ刈り取る。そして絶対的な恐怖を植え付けるのです。それでこそ支配者！完全なる王の、力！」

83
アリス「また……つ、この世界の人達に、倒されるわよ……！」

84
アリス「その前に、アリスさんの肉体を奪い、絶対の存在になるのです！ これからその儀式を、あなたの身体に施します」

※se1 .. ガチャツと木製のドアを開ける音

85
アリス「おい、アリスっ。夜這いにきたぜ！……つて！ なんだ
こりや！？」

86

90	89	88	87
<p>ライラ 「るせえ！ すかしてんじやねえぞ！ おらああ！」</p> <p>※se1 .. タンヒとパンチやキックを身体でガードする音</p>	<p>イリス 「ふふっ。返答の前に攻撃してるじゃないですか」</p>	<p>ライラ 「あん！？ アリスどうした！？ てめえ、イリスとか言いやがったか。アリスに何しやがった！？ 返答によつちやただじやすまねえぞ！ だりやあ！」</p>	<p>アリス 「ぐうう……！？ らひ、ライラさんっ！？ 助かつた！」</p>

る音

ライラ 「ちつ。硬え……！ 魔法障壁か、チクショーガ！」

イリス 「無駄ですよ。あなたの攻撃は、私には届きません」

ライラ 「試してみるか？ オレの体力は無限だぜ！ おらつ、おらつ、どちらあ！」

イリス 「ふふふ。学習能力がないんですねシシ族は」

ライラ 「黙つてろつてんだ！ うるあツ！」

95

94

93

92

91

100	99	98	97	96
ライラ 「大丈夫かよアリス！」	アリス 「くつ、ハア……ハアツ。ありがとう、ライラさん……」	ライラ 「……ちつ。消えやがった。何者なんだあいつ？」	イリス 「……また余計な人が増えちゃいましたか。仕方がありませんね。後日改めて、アリスさんの身体を奪いにきます。ではまた……」	ウルド 「お姉様？ 部屋の中が騒がしいようだが、どうかしたのか？」

アリス 「平氣……。ウルドさんも、入ってきて」

※_{SE1} .. ガチャツと木製のドアを開ける音

ウルド 「……ん？ お姉様つ、どうしたのだ！？ なぜシシ族の

ライラがここにいる！？」

ライラ 「オレはアリスの女になることに決めたのさ。あの戦いで

は女の悦びを教え込まれたからな」

ウルド 「……どこかで聞いたことのある台詞だな」

ライラ 「アリスにまた、エロいことしてもらおうと……苛めても
らおうと思つてきてみりや——」

105

104

103

102

101

111	110	109	108	107	106
アリス「ライラさんには、助けてもらつたの。イリスちゃんに、やられちゃつた……」	ウルド「イリスに！？ どういうことだ！？」	アリス「イリスちゃんは、魔神を復活させようとしてるの」	アリス「ライラ「魔神だ！？」	ウルド「あれはおとぎ話のはずでは……？」	アリス「ううん、違う。ほんとのことみたい。魔神を完全復活させるために、私の身体が必要なんだって……。イリスちゃんを、止めなきや！」

ライラ 「しかしさリス、あいつの強さははんぱなもんじやねえぞ。
さつき戦つてみて実感したぜ。多分全力のお前でも、かなわ
ねえはずだ」

113
アリス 「わかつてる。だから」そ、この危機をみんなに話さなく
ちゃ！」

※se 1 .. 鳥のさえずりなど、朝を連想させる音

114
マツリ 「アリス、お待たせしましたわね」

115
アリス 「きてくれたんだねマツリちゃん。ありがとう」

116
マツリ 「あなたからの頼み事ですから、礼には及びませんわ」

121	120	119	118	117
ウルド「話の途中ですまないが、急いだ方がよさそうなのでな。 早速例の祠へ向かおう」	マツリ「アリス、それはどういう意味ですか？」	アリス「マツリちゃんほんとうり一いつだね。でもイノリちゃんの方が丁寧だ」	イノリ「はい。マツリの双子の妹、イノリと申します。姉がとてもお世話になつていて、私もお礼を申し上げます」	ウルド「呼び出しに応じてくれて感謝する。そちらが例の……？」

アリス「祠……ほんとに壊れちゃってるね……。やっぱ雷が直撃したんだ……」

イノリ「……なるほど。封印されていたものは、すでにここにはないようです。ですが、空になつてもこの瘴気……。とても強く、禍々しいものが封じられていたのは間違いないようですね」

124

アリス「さすが、イノリちゃんにはこういうの、わかっちゃうんだね。私もちょっと、寒気がするよ……」

125

マツリ「当然ですわ。イノリは我が部族随一の靈媒師。妹の右に出る者などおりません」

123

アリス「祠……ほんとに壊れちゃってるね……。やっぱ雷が直撃したんだ……」

122

アリス「祠……ほんとに壊れちゃってるね……。やっぱ雷が直撃したんだ……」

ウルド「それは心強い。キツネ族に協力を求めたのは正解だった。
それで、封印されていた存在の現在の居場所は、どこかわ
かるか?」

127
イノリ「はい。これほど強力な波動を感じたことはありませんか
ら、魂を辿るのもとても容易です。ここより東の方角に、大
きな波動を感じます」

128
イノリ「それと、よくない報告も……。魔神の魂は、少しづつで
すが、その存在が膨らみ、禍々しさも増していつているよう
です」

129
アリス「アリスちゃん……魔神復活のために、力を溜めてるみた
いだね……」

ウルド「おそらく、お姉様の肉体を奪おうと準備しているに違いない」

マツリ「でしたら、放つておくのは得策ではありませんわね。先手を打たなければ、ただ死を待つばかりですわよ」

マツリ「手を打たなければ、ただ死を待つばかりですわよ」

アリス「そうだね。そこでちょっと、私に考えがあるの。たくさんの人協力してもらえるように、お願ひしにいかなきや！」

アリス「よくここがわかりましたね、アリスさん。お仲間もたくさん引き連れていらっしゃるなんて。まさかあなた自らが飛び込んでくるとは、思いませんでした」

アリス「どこにいたって危ないのは同じでしょ？ だつたら先に動く方がいいよ。待つのは性分じやなしね」

134	133	132	131	130
-----	-----	-----	-----	-----

139	138	137	136	135
イリス 「……ですか。たとえ勇者だとしても、私にはかないませんよ」	アリス 「違うけどね。けど、どうとってももらつてもいいよ」	イリス 「……他は足手まとい、ですか？」	アリス 「どこにいたつて魔神の脅威にさらされる。だからみんな、ここにきたんだよ。でも安心して、戦うのは私一人だけだから」	イリス 「それで、どうしようと？ 全員でかかれば、私に勝てると踏みましたか？ 私はあらゆる秘術、禁術に手を染めました。魔神を除いて、私の力を凌駕する者はいないでしよう。命が惜しいのなら、退散した方が身のためですよ」

アリス 「勝負は、やつてみなくちやわかんないよ！ はああああ！」

イリス 「やらなくてもわかります。はツ！」

※se1・雷鳴※se1・ゴゴゴー、ゴゴゴーと地震の
地響きのような轟音

ウルド 「くッ、なんだ！？ 二人がぶつかり合うたびに、世界が

揺れているみたいだ！」

ライラ 「みたい、じやねえ！ 実際に大地が揺れてやがる！」

マツリ 「二人とも、馬鹿げてますわ！ なんという力ですの！？」

144

143

142

141

140

サーラサーラ 「私達が入る隙がない……！」

145

146 イリス 「砕け散りなさい！ はああツ！」

※se1 .. 雷鳴

147 アリス 「（）んな魔法つ、どうつて）とない！ やあツ！」

※se1 .. ピピピ .. ピピピ と地震の地響きのよう
な轟音

148 イリス 「私の魔法を、すべて弾き返した……。私が知っているア
リスさんの実力を超えている……？」

149 アリス 「考えてる暇なんてつ、ないよツ！ だあツ！！」

ライラ 「アリス、すげえ！ 蹤つただけで衝撃波を起しやがった！」

※se1 : タンヽとパンチやキックを身体でガードする音

イリス 「ふう。私の顔を襲うなんて、足癖が悪いです……んッ？」

アリスさんがいない！？」

アリス 「上だよ！ 炎の雨ツ！ いつけえええツー！」

※se1 : ピピピヽ、ピピヽと地震の地響きのよう
な轟音

アリス 「同時にきーーーツく！… だあツ！…」

153

152

151

150

※seq0..繰り出したパンチやキックが対象に連續で
ヒットした音

157	156	155	154
アリス「それを聞いたからこそだよ！ そうしないと、アリスちゃんには勝てないって思つたし」	アリス「全員……!? なんという馬鹿げたことを……！ 力を蓄えすぎたがために魔神化したウイズの話を聞いていなかったのですかあなたはつ」	アリス「へへんっ。ここにいる全員とエッチして、しつかりちゃんとたくさんの能力、体得していなかつたはず！」	アリス「く……ッ！ なんですかこの多彩な攻撃は！？ こんなにもたくさん的能力、体得していなかつたはず！」

158 イリス 「考えなしにもほどがあります！ アリスさん、あなたは本当に……人ですか！？ 力を暴走させてしまうかもと、思わないのですか！？」

159 アリス 「思わないよ。だつてこの力は、すべて愛の営みのよつて得たものだもん。私の女の子達の力が、私を傷つけるはずないでしょ！」

160 アリス 「…………ふふ、ふふふ…………。そんな…………愛だなんて…………。あなたは…………どうかしています！ 愛なんて…………肯定できません！ はあああッ！！」

※Se1 .. 雷鳴

161 アリス 「ウルドさんにサーラちゃん、マツリちゃんやライラさん。私の愛すべきすべての女の子達の力が、私を助けてくれる！ 私に力を貸してくれる！ だから私は——負けないッ！！」

※se1：「**バババ**、**バババ**と地震の地響きのよう
な轟音

マツリ 「なんというでたらめさでしょう……！ 炎と氷、雷と風、

その他諸々の魔法を同時発動させてイリスの攻撃にぶつける
なんて！」

イリス 「くうううううツ！？ やはりあのときの、無理矢理にでも

身体を奪つておくべきでした……！。まさかこんなにも短期

間でここまで力を得るなんて……！」

164

アリス 「イリスちゃん、できれば降参してほしい。これ以上イリスちゃんを傷付けるの、気が進まないからね。私はイリスちゃんのことも、大事に思つてる。好きだから」

163

アリス 「イリスちゃん、できれば降参してほしい。これ以上イリスちゃんを傷付けるの、気が進まないからね。私はイリスちゃんのことも、大事に思つてる。好きだから」

162

イリス「また、愛、ですか……。その言葉、虫酸が走ります！
私だけの力でアリスさんに及ばないのなら……魔神の魂に、
私の肉体を捧げます！」

※se1..魔法が発動して風が巻き起こっている音（
強風と弱風の中間くらい）

166
イリス「私が魔神の魂を取り込んで、私自身が最強になればいい
！きたれつ、魔神ウイズ！汝の肉体はここにあらん！」

167
アリス「ダメよイリスちゃん！ そんなことしたら——」

※se1..雷鳴※se1..ゴゴゴゴ、ゴゴゴゴと地震の
地響きのような轟音

168
イリス「ぎやあッ！？ あ、あ、あ、あ、あ、ツ！？」

173	172	171	170	169
ウルド 「まずい！ くるぞ！」	マツリ 「あれが暴走ですの！？ なんと醜い……！ 魔神というより邪神ですわ！」	ライラ 「おいっ、触手の化け物に変身しやがったぞ！」	イリス 「ぎああッ！？ んがあ、あ、あ、ツ！ 蹤躡 ≪じゅうりん≫ ……つ、破壊！ あ、あ、あ、ツ！！」	イノリ 「いけません。やはりイリスさんでは、魔神ウイズを制御しきれないようです。暴走します！」

アリス「みんな逃げ——うあああツ！？」

サーラサーラ「うつ、くああ！？ 触手に、この身体をつ、絡め取られる！？ そんなつ、私の半液体の身体でも……逃れられない！？」

マツリ「ひつ、くうう！？ 冗談じやつ、ありませんわ！ こんな醜いものにつ、犯されてやるものですか！ あぐあツ！？」

ライラ「くそツ！ 引きちぎれねえ！ なんて頑丈さだ！ うぐあツ！？ やめろつ、アソコに狙いつ、定めやがつて！ 才レを好きにしていいのはつ、アリスだけだぞ！」

ウルド「あたしの身体に触れるな！ この肉体はつ、お姉様のもの！ やめツ！ うつぐ、あああツ！？ 下の口に触手が入つて……！？ ふああ！？」

178

177

176

175

174

182	181	180	179
<p>イリス 「犯す……！ 犯し殺す！ 私に逆らう者はつ、肉体を弄 びながら……皆殺し！」</p>	<p>サーラサーラ 「かつ、身体中につ、触手を突き刺されて……！？ がつ、は！ 痛いはずが……つ、この触手にも……媚薬効 果があるの！？」</p>	<p>マツリ 「かぶツ！？ ぐぶぶウツ！？ 口にまれツ！？ ぐぶオ ツ！？ ぶごツ、わたくしの口をつ、なんらと思つで……ぐ ぼごぼオツ！」</p>	<p>ライラ 「くつ、うほおツ！？ おぐンツ！？ けつ、つ……にま でつ、入つてくんじや、ねえ……！ くほオツ！？ アソコ と同時攻めつ、やめろオ！ ほおお！」</p>

アリス「みつ、みんな……つ！ イリスちゃんつ、魔神に負けないで……！」

イリス「黙りなさい……！ あなたが抵抗せず身体を差し出していれば、こんなことにはならなかつたのです。アリスさん、あなたも苦しみながら滅んでください！」

184

185

186

アリス「が……ッ！？ 触手で首つ、ぐう、締められるッ！？ が、ばッ！？ アソコもお尻もつ、触手でゴリゴリ……苛められるのにッ！？」

ライラ「くそ……ッ！ こんなつ、触手の化け物なんかにつ、イカされたくねえのに……！ ああっ、ダメだッ！ アソコとケツ穴の壁……ズリズリ擦られてつ、イツ……く！ くあああンッ！？」

190	189	188	187
ウルド「ぐふあつ、痛みが全部つ、快感に変わつで！？ おふつ、 おおおんツ！？ 耐えつ、られなひ……！？ イグ！？ ぐ ふおおおんツ！？」	ウルド「がああツ！？ 子宮の中までつ、触手に入り込まれで！ ？ 腹にボコボコ、形が浮き出るくらい、突き込まれでるツ ！？」	サーラサーラ「身体の中心つ、ゴツンゴツン叩かれで！？ 全身 に快感が響く！？ ふひひンツ！？ んひあ！？ イクツ！ ひひひイイインツ！？」	サーラサーラ「身体の中までつ、触手にいじくられるのつ、ダメ え！ 体内につ、ゴリゴリ這いぢつてる……！？ はぎああ ！？」

194	193	192	191
イリス「ふふふ。はははは！ 息の根を止める！ 死ね……死ね死ねえ！ きやはははは！」	アリス「ぐつ、ううううツ！ このままじゃ……みんなが……つ！ げほつ、ぐぐウ！ ほんとに殺されちゃう！」	マツリ「ふぎぎンツ！？ 肉の穴にズボズボ、触手突っ込みながあツ、ごぼぼ！？ クリつ、撫でうのは！？ ほぎゅツ！？」 ぎゅうウウウンツ！？」	マツリ「がぼぼツ！？ おぼンツ！？ 喉の粘膜つ、グリグリつえ、しないれ！ あぼぼオツ！？ 壊れ、る！」

198	197	196	195
イリス 「あきやツ！？ なつ、何を！？」	アリス 「イリスちゃんも、助ける！ 迷惑って言われても、絶対助ける！ はああああツ！！」	イリス 「く……ツ！？ なんという想いの力！？ 私の触手を引きちぎるなんて……！」	アリス 「ハハハ」につ、いるのは……つ、みんな私の、大事な……女の子……！ 恋人、なんだから！ 殺させ……ない！ 私が守る！ ぐつ、んんんん！ ハんな触手なんて……だああああツ……！」

※se0 .. 繰り出したパンチが対象にヒットした音

202	201	200	199
<p>アリス 「……うつ。ここが、魔神ウイズの精神世界……？」寂しいところ……」</p>	<p>イノリ 「はいっ。ではいきます！」</p> <p>※_{SE}1 .. 大きな氷の塊がバキッと砕け散った音</p>	<p>アリス 「ＯＫ！ ありがとイノリちゃん！ 必ず助けてくるから っ、お願ひ！」</p>	<p>イノリ 「アリスさんそのまま！ アリスさんを強く抱いていてください！ アリスさんの意識を、魔神ウイズの精神に接続します！ アリスさんの心を、魔神から切り離してきてください！」</p>

ウイズ「うつ、がツ！ があああツ！ 破壊！ 破壊イ！ この世に……崩壊を！ すべてを破壊、し尽くす！」

アリス「あれが……ウイズ？ 私と同じくらいの年の子じゃない……！ 私よりも華奢だし……あんなおとなしさで可愛い

子が、魔神に……つ？」

アリス「そつか……。暴走してるだけで、中身はいい子なんだきっと。私も精神である子とつながってるからだろうけど……」
「そう感じる！」

ウイズ「アリス……アリスう！ 我が破壊衝動を妨げる者！ 我が破壊行動を阻止する者！ 貴様を破壊する！ 貴様を粉碎するウ！」

206

205

204

203

211	210	209	208	207
アリス 「……えッ！？ 何、今の声？」	ウイズ 「……や……だ……い」	<p>アリス 「負けないよ！ ウイズも助けるつ、やああああツ！！」</p> <p>※se1 .. 雷鳴※se1 .. ゴゴゴい、ゴゴゴいと地震の 地響きのような轟音</p>	ウイズ 「アリスを破壊！ アリスを破碎イいいツ！！」	アリス 「そうされる前に、あなたも助ける！ だつて可愛い女の子を助けるのは、いつだつて勇者の役目だもんね！ あなたの魂に張り付いてる邪悪な能力を、剥ぎ取つてあげる！」

※se1 .. 雷鳴※se1 .. ヴゴゴゴー、ゴゴゴーと地震の
地響きのような轟音

212 ウイズ 「やだ……！ やだよッ！」

213 アリス 「これつ、ウイズの声！？ ウイズの心の叫び！？」

214 ウイズ 「こんなつ、やだ！ アリスを壊したくないつ。破壊な
んてしたくない！ ほんとはみんなとつ、仲良くしたいのに
……ッ」

215 アリス 「ウイズ……つ。これがウイズの、本心？」

ウイズ「助けて……！ 世界を滅ぼしたくないつ。みんなに嫌われたくないの！」

※se1・雷鳴※se1・ゴゴゴゴ、ゴゴゴゴと地震の
地響きのような轟音

アリス「あつぐ、ううう！？ すゞ、力……！ 全力でぶ

つかつても、押されるッ！？」

アリス「でも、退くわけにはいかない！ ウイズを助ける！
ウイズ、助けるから！ 絶対にそこから、解放してあげる
！」

ウイズ「アリつ……ス……！？ ぐ、がががアツ！？」

219

218

217

216

224	223	222	221	220
アリス 「おはよう、 ウイズ」	ウイズ 「……つ、 あ……ああつ、 く……アリ、 ス……つ？」	アリス 「やつた……！ ウイズの魂に張り付いてた邪悪な黒い靄をつ、 なんとか取り払つた！」	ウイズ 「ぎやあああああッ！？」	アリス 「……ウイズの動きが止まつた！？ ウイズが暴走する自分に抵抗してくれてるんだ！ このチャンスにつ、 私のすべての力を込める！」の一撃に——かけるッ！ はあああああッ！」

※se2 .. かめはめ波のようなエネルギー放出系の大技を放つた音

228	227	226	225
アリス「わかつてゐるよウイズ。私が愛してあげる。だから私のこ とも愛して……つ」	ウイズ「ごめんなさい！ ああっ、私は……我はなんてことを… …！ みんなを愛したかつた……。みんなに愛されたかつた …！ それだけなのに……あああああつ」	アリス「うん。今は泣いていいよ」	ウイズ「うつく、ううううう……アリス、アリス！」

229	230	231	232	233
ウイズ「……アリス、こんな我でも、愛してくれるの……？」 アリス「もちろん！ ウイズみたいな可愛い子を愛さないなんて、 勿体ないもん！」	アリス「うわあ！ ウイズみたいな可愛い子にそんなこと言われ たら、私……我慢できないからねつ」	ウイズ「アリス……、ありがとう……。私も、アリスを愛した い……つ。 我を救つてくれたアリスに、すべてを捧げたい……」 「……」	アリス「いいよ。 我の全部……アリスに預ける……つ。 受け取つ て……！」	

238	237	236	235	234
アリス 「でしょ？ 愛し合うのって最高だよね！」	ウイズ 「んふつ、ちゅう……ふはあつ。すぐく、気分が高まる… …！ ハアツ、気持ちいいっ」	アリス 「キスすると、なんだか気持ちまでつながるみたいで、あ つたかいでしょ？ もつとしょ……！ んつ……ちゅつ、ち ゅ……つ」	ウイズ 「んあ！？ これが……アリスとの口付け……？」	アリス 「うん……。ちゅつ……」

ウイズ「うん……。アリスの愛……もつとほしい……！」
ともつと、愛し合いたい！」

アリス「じやあもつと、深いキス……！ はむうつ、ちゅる……

つ、ちゅつ……レロンツ、べろつ……んちゅるツ！」

ウイズ「あんん！？ ジュル、るりゅうつ。すゞつ、い……！

舌を擦り合わせへ……つ、ジュルル！ よだれえ、混ぜ合わせへるだけなのにつ……頭がキュつへ、締め付けられるみたいに、なるウ……！」

アリス「んはあつ。ふふ、これよりもすごいこと……してあげる……！ ああつ、ウイズのおっぱい、クニクニって揉みながら……乳首、舐め上げるつ。レロツ、ちゅるん！」

242

241

240

239

ウイズ「きやあンツ！？ 本当につ、すごイ……！ お乳の先に
つ、ぬるぬる舌が這い回つて！？ きやんん！？ 乳首ジリ
ジリするウ！ 背中まで伝わつて、頭の中も……ピリピリ痺
れてくる！」

244
アリス「んちゅる、チロチロチロ、ベロン！ んつ、はああつ。

舌先でクリクリこね回しただけで、ウイズの乳首……かつ
ちかちになつた！ ピンピンに勃起してゐよつ」

245
ウイズ「きやあ！？ そんな恥ずかしいことつ、言わないでえ…

…！」

246
アリス「乳首よりも恥ずかしいとこも……舐めてあげる……ツ！
ウイズの股、広げて……！ んんつ」

ウイズ「んきゅあツ！？ そんなあ……つ、アソコ、丸見えになつて！？ んんんつ、恥ずかしすぎる……！」

アリス「ふふつ。ウイズの下のお口……つ、もうヒクヒクつてして、いやらしい……！ ああつ、私も興奮する！ ヒクついてる肉穴の入り口に、舌、差し込んで……レオレオレオツ！」

ウイズ「ひあああンツ！？ んつ、んツ！ んんん！？ きやあああツ！？」

250

アリス「うあ！？ アソコを軽く舐めただけで、お潮がピュつて出てきた！ ウイズ……かなり感じやすいんだつ。可愛いよ！ レロンツ、ベロベロツ！ ジュルう！」

249

248

ウイズ「んきゅあツ！？ そんなあ……つ、アソコ、丸見えになつて！？ んんんつ、恥ずかしすぎる……！」

ウイズ「んきゅあツ！？ そんなあ……つ、アソコ、丸見えになつて！？ んんんつ、恥ずかしすぎる……！」

ウイズ「卑猥なお口ペロペロするのつ、きやはあああンツ！？
だつ、ダメ！ んんきゅう！？ どんどん気持ちよくなつ
て！ 感じすぎて！ また変になる！ んくううううンツ！

？」

アリス「ああンツ！？ すごいつ。アソコがキュンキュンして…
…イツてるんだね！ 私で感じてくれるのつ、嬉しいよ！

もつと変にしてあげる…！ れりゅれりゅれりゅン！」

ウイズ「んひアツ！？ あいつ、いいいいンツ！？ イクつ！
ひきやああああツ！？ 潮つ、ピュルピュル噴いて恥ず
かしいのにつ、イツてるよオ！」

アリス「ああつ、ああ！ ウイズ！ いっぱい潮噴き絶頂して！
んんんつ、私の興奮もヤバくなつてきた！ 今度は一緒に
気持ちよくなろつ」

254

253

252

251

258	257	256	255
<p>アリス「ああっ、ウイズ！ 肌もすっごく、綺麗だね……！ 私と大違いつ。くあつ、ハアツ、肌も擦り合おつ。すりすりつ、すりすりつて！ はあンツ！」</p>	<p>ウイズ「きや！？ やあああ！？ イツて敏感になつてゐるのにつ、擦つたら余計に！ にやあああ！？ ビリビリつて、身体中が痺れてる！？ 痙攣も止まらなくてつ、ダメえ！」</p>	<p>アリス「お互いの股間を、すり付け合うの！ ほらつ、こうして腰、くねらせて！ んんんつ！ くん！ くはあンツ！？」</p>	<p>ウイズ「あひイツ！？ 今イツたばかりなのにつ、アリス！？ きやああ！？ あつ、うう！？ 脚つ、こんなに深く、絡み付かせて……！？」</p>

ウイズ「ひああんツ！？ アリスのお肌がつ、身体に擦れるだけでつ、頭の中に電気が走るみたい！？ ひああ！？ 乳首同士つ、すれ合つてるウ！ キヤンん！？」

アリス「ウイズの身体つ、熱くつて……気持ちいい！ おっぱいも、乳首もつ、コリツコリツて擦れ合うのつ、ほんとにゾクゾクする！ はああ！ たまんなくなつて、勝手に腰一振『

よじ』つちやう！ くンン！」

ウイズ「アひンツ！？ アソコが擦れ合うたびにつ、グチヨグチヨつて音があ……！ 恥ずかしくてつ、気持ちよくてえ！ もうわけわかんなくなつてる！」

アリス「ウイズのクリもつ、皮から飛び出すくらい勃起してる！ ここもつ、くりゅくりゅつてすり合わせて！ んきヤンんんツ！？」

262

261

260

259

ウイズ「はひひンツ！？ そこダメ！ 肉芽は感じすぎてつ、おかしくなるから！」

アリス「感じすぎてつ、いいの！ 私もダメになりそ……！ ひ

ああ！ クリからつ、アソコの口までぬりゅぬりゅつてつ、
ウイズの肉の穴が擦れて！？ あああつ、ウイズと気持ちよ
くなることしか考えられない！」

ウイズ「アリス！ アリスう！ アリスもきて！ んんんイツ！
？ イツてほしい！ アリスと一緒に、イキたいツ！」

アリス「くひあ！ あああンツ！ うんつ、イコ！ あああつ、

ウイズ！ 私、イク……！ くつ、ふああ！？ イクツ！」

263

264

265

266

271	270	269	268	267
ウイズ「きやんん！？ 我もつ、イヒ……イ！ いいいいくツ ！？」	アリス「最後につ……アソコ同士、思い切り押し付け合つて！ ぐつ、ふんん！ グリュッて強く擦るッ！ ふぐぐンッ！」	ウイズ「ひひやッ！？ 強ッ！？ あつ、アッ！ イクッ！ ン ああああッ！！」	アリス「きやああ！？ ウイズも腰振つてる！？ いやらしいお 口グリグリ摩擦されてつ、イクイクイクううううううッ！！」	ウイズ「きやう！？ ふひつ、ひはあ……！ あぐつ、ハアハア ハアッ！ まだイッて！？ んんんつ、またお潮出てるウ！ ？ あああッ！？」

276	275	274	273	272
アリス「ウイズ……？ 最後つて……」	ウイズ「はふ……はうう……つ。アリス……最後に……アリスと 愛し合えて……よかつた……つ」	アリス「これがつ、くはあ……つ。愛し合うつて、ことだよ…… つ。ウイズ……」	ウイズ「はひ！？ あひひンツ！？ うつ、ぐは！？ はふつ、 ハアハアツ……あう……ああああ……ツ！ すゞひ……気持 ち、よかつたあ……ツ」	アリス「イツて！ イツてえ！ 私もイツてるから！ んあああ ！ 潮噴きアクメしまくつてえ！」

ウイズ「私は、ここで……お別れ……。我的肉体は、もう失われてしまつてる……。だから、アリスと同じ世界には……いら
れない……」

アリス「そう……なんだね……」

ウイズ「それに……この子に……アリスに、身体を返さなきや……。
アリス、また会えるといいね……」

アリス「うん……。またどこかで会えるよ、絶対！」

ウイズ「アリスが言うと……そんな気がしてくるから……不思議
……。ふふつ。じやあ……また……」

281

280

279

278

277

286	285	284	283	282
アリス 「うわあ～、いい眺め！ ああ～、こうやって女の子達に迎えもらえるのって、最高♪」	サーラサーラ 「……ふう。アリス、戻ってきたんだね」	ライラ 「おおっ、アリス！ やっぱ無事だったか！ さすがだぜ！」	ウルド 「……ツ！？ お姉様ツ！」	アリス 「またね、ウイズ……！」

※S02 .. 回復魔法をかけたような癒しの音(キャラクターが天に召されるシーンで使用)

291	290	289	288	287
アリス「うん。ウイズは、遠いところに行っちゃったけどね。でも また、会えると思う」	イノリ「おめでとうございます。魔神から完全に切り離すことに 成功したんですね」	アリス「もちろんだよ！ ほら、この通り！ 今は消耗して眠つ てるだけ」	ウルド「お姉様……イリスは大丈夫なのか？」	マツリ「まあ、あつけらかんと。まつたく……あなたという人は、 こちらがどれほど気を揉んでいたのかしりもしないで」

ライラ「…………たしたが、とりあえずアリスが戻ってきてよかつたぜ！ さすがオレのご主人様だ！」

ウルド「…………主人様？ アリスはあたしのお姉様だぞ」

マツリ「ねえアリス、わたくしはあなたのために身体を休めてましたから、これから二人でベッドに行くこともできますわよ？」

サーラサーラ「アリス、また一緒に生殖行為しない？」

アリス「うつはあく！ なんて強引なお誘い！ どの女の子も、みんな大好き！ さて、これから全員と交わっちやうわよ！ みんな覚悟しててね！」

296

295

294

293

292

ライラ 「望むとこだ！ 一番手はオレだぜアリス！」

ウルド 「何を言うか！ それはあたしが務めるのだ！」

マツリ 「さ、アリス、言い争つてゐる二人は放つておきましよう」

サーラサーラ 「今度はアリスが攻めてくれていいよ。私もアリスのテクニック、味わいたいしさ」

イノリ 「あ、あの……私も混ぜてもらつても、いいでしようか……？」

アリス 「オールOK！ みんな大歓迎！ さあ、早く帰りましょ！ 私のハーレムへ！」

302

301

300

299

298

297